

2025 年 11 月 09 日

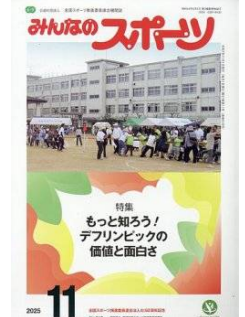
『みんなのスポーツ』 11 月号(No.518)から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の 11 月号は「もっと知ろう！ デフリンピックの価値と面白さ」の特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を 3 点記載します。



- (1) スポ推コラボ通信 vol.12 神奈川県横須賀市の記事。紙面の冒頭部分(P1～P3)に紹介されるとは思ってもおらずびっくりです。取材の時、校正段階では気づかなかったが時間がたって読んでみると多少言い足りなかったところもあるなとも感じています、腹八分目このくらいが良いとも。

自分が記事を作成・ZOOM 方式のインタビュー取材？ 含め「みんなのスポーツ」で紹介されるのは、今回が 3 回目(アンケートの回答は除く)となる。私は地域のスポーツ推進には、委員の連絡調整や連携協働が欠かせないと思っています。今回は三市交流会(藤沢・大和・横須賀)、横須賀三浦ブロック研修会、横須賀市内6でのブロック研修会交流会・巡回観(見)学他など含め幅広い活動と現状について感じていること他を紹介させていただきました。一度紹介記事を読んでみてください。ただ漫然と見ていたのでは気づかないが、ものさし・何かの基準などをもってそれぞれの行事他を見ていると新たな発見・気づきがあるように思います。みなさんができるところから始めてみましょう。

- (2) 表紙 運動会(大阪府高槻市)の写真に目が留まった。運動会の綱引きである、横須賀市協議会のホームページは年間延べ1万人弱の方が見ておられる。一番よくみられているのが R6 年の場合は<お知らせ>の健民運動会関連記事、各学区を見回って紹介の記事。閲覧分析で感じたことは多くの方のところでも運動会を継続・種目は何他同じようなことを感じておられるのかと推察しています。今回も学区健民運動会の綱引きで事前に会場の小学校と確認を取っていたら、少し老朽化？ やむなく中学校から借りることを行った。健民運動会で参加希望の方が特に女性の部は多くなる、何回かに分けて行っていたことを思い出しました。表紙を見てすぐに目が行きました。

- (3)理論1デフリンピックの過去、現在、未来の記事。今回の東京他でのデフリンピックにボランティアでの参加も考えましたが、拘束時間他いろいろ対応できないことがあり断念しました。勤務していた会社には「ろう者」の方がおられた、10 年くらい前に猿島公園専門ガイド協会には年数件ものガイド要請があり、みんなで手話を学ぼうということになり2 年くらい継続して「手話」を学んだ。最低限度の対応はできるようになりました。

今年 7 月の児童ミニバスケットボール交流大会にはデフリンピックバスケットボール日本代表の横須賀市出身双子の加藤姉妹に来ていただき、手話ミニミニ講座やバスケットボールのドリブルやシュート指導を頂きました。冊子の理論1の最後のところで、健聴者側の広い関心と深い理解が望まれます

すには全く同感です。

* 反省: スポ推70号で児童ミニバスケットボール交流大会を紹介いたしましたが、写真中心で加藤姉妹のことを触れておくべきであったと思っています。

今月号で3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことのできることから始めて(行動)みませんか？

* **本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがある**ように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。**問題意識や感度を高めていく**と紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど20年近く購読していています。特にここ1、2年で**冊子内容が読者参加型の編集**になりました。活動はみんなでは是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上